

# リハビリテーション科における新型コロナウイルスの感染予防対策 アンケート結果について

令和2年6月20日

大分県理学療法士協会 学術担当理事

藤原愛作

拝啓

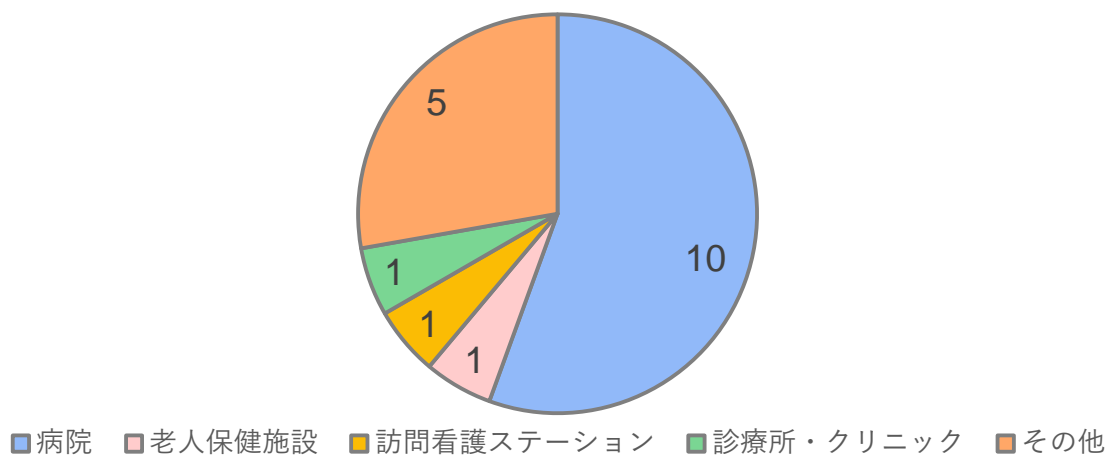
新緑の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

5月7日付のファックス通信にて、会員施設で行われている新型コロナウイルスの感染予防対策についてのアンケートの依頼を行い、集計期間を終えました。最終的には18施設より回答いただきました。お忙しいところ、回答いただきお礼申し上げます。

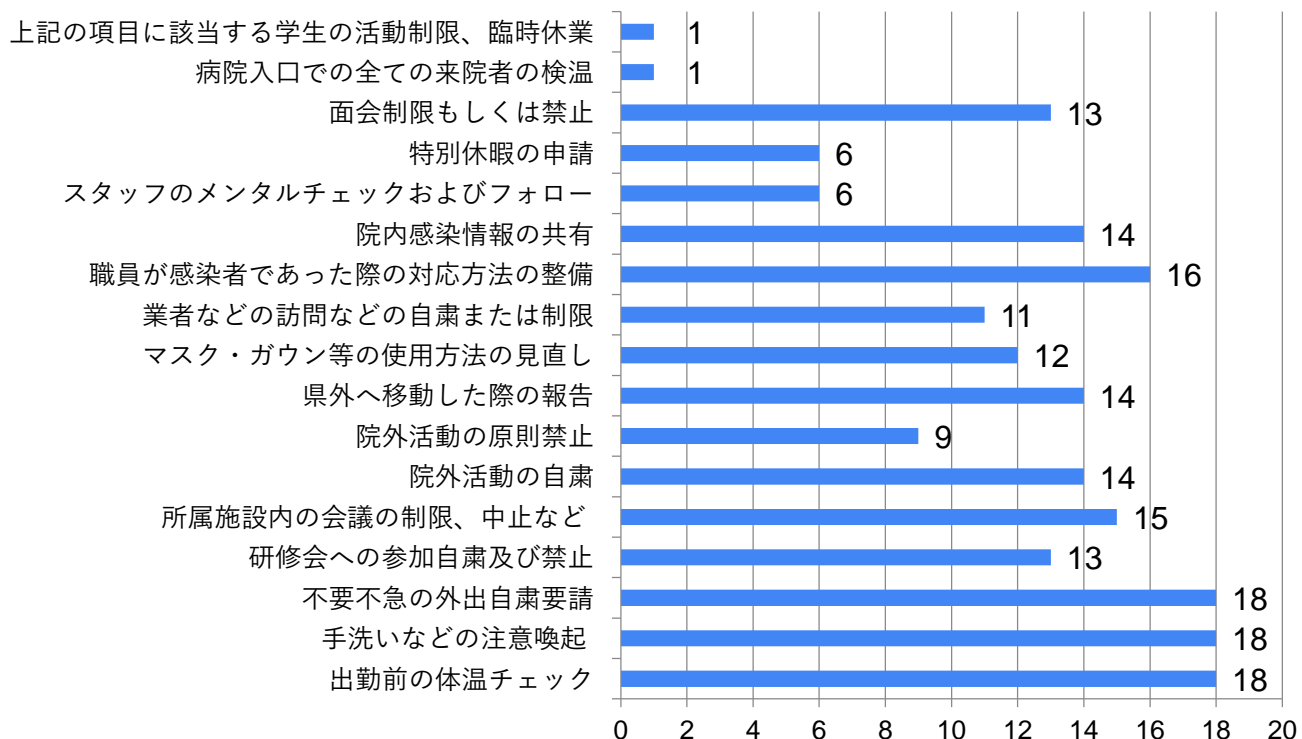
早速ではありますが、集計結果を下記にまとめましたのでご参照ください。

敬具

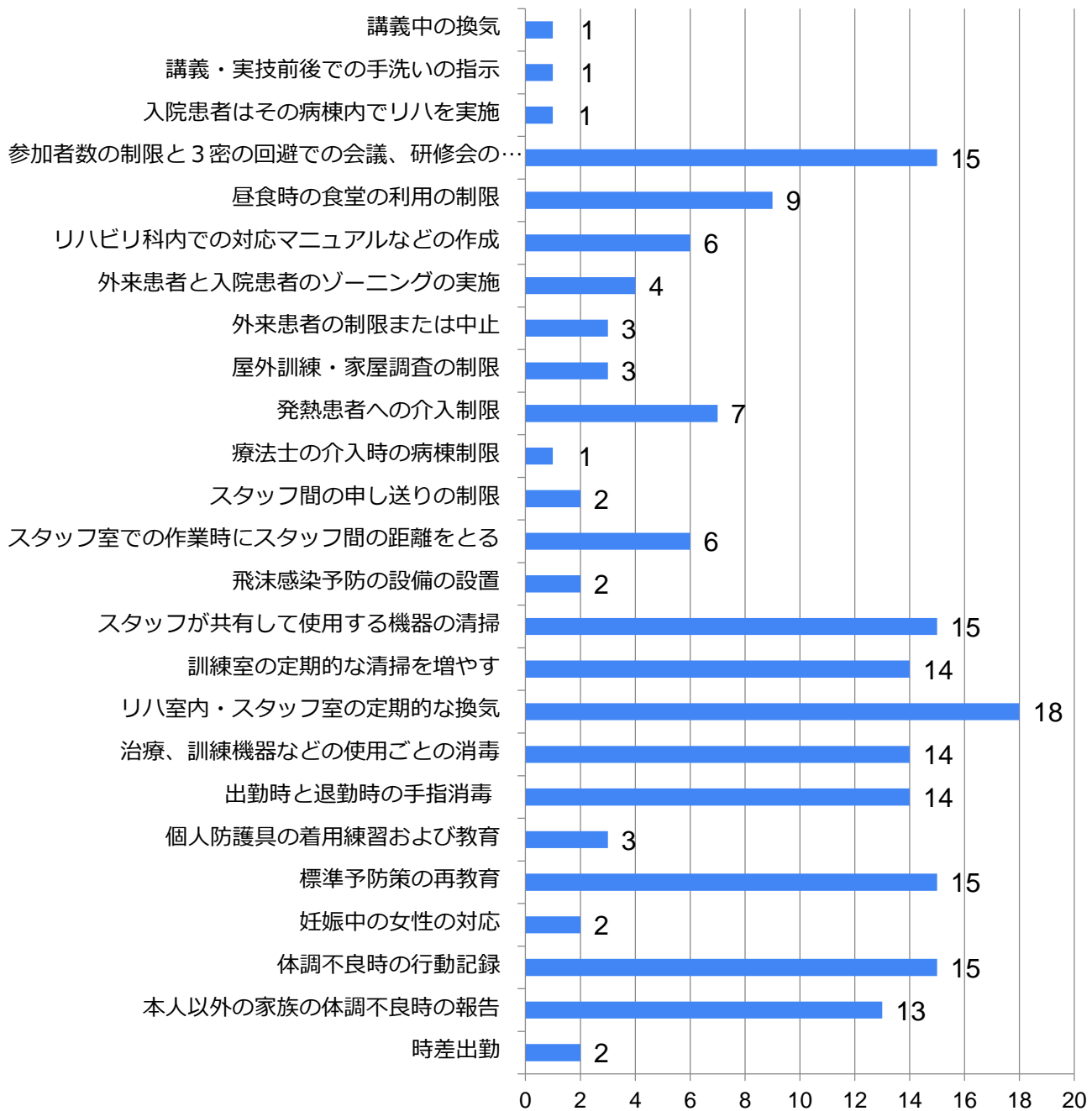
## 回答施設の属性（総数 18施設）



## 所属施設の感染対策として取り組んでいることを下記からお選びください（複数回答可）



リハビリテーション科における感染対策として取り組んでいることを下記からお選びください  
(複数回答可)



## まとめ

COVID-19の感染拡大予防の情報共有として、Googleフォームを用いたアンケートを実施した。初めての取り組みということもあり、回答率が6%（18施設）にとどまった。

回答施設の多くは3密を回避するための対策は行っていた。リハビリテーション科の対応としては、機器の清掃や職員の行動記録など基本的対策はほぼ実施されていた。

外来と入院患者のゾーニングや介入病棟の制限など実務の中での対策は、COVID-19の患者が入院する病院が限られていることもあり、実施施設は少なかった。また、妊娠中の女性の対応や個人防護服の着用練習など療法士自身が感染リスクから回避する対策も検討していく必要があると考える。

以上のことより、業務前や業務外での感染リスクの回避は定着している様子であるが、個人防護服の再教育やゾーニングなど業務中の感染対策予防にも積極的に取り組んでいくことが課題と思われる。

今後も機会があれば、今回同様に情報共有を行っていきたいと考えているため、その際には会員の積極的な情報提供をお願いしたい。